

〈2019年秋版：ことばのテーブル教材集の目的と使い方〉について

昨年より、ことばのテーブルの教材をご利用いただくためのひとつの資料＝教材ガイドとして、「ことばのテーブル教材集の目的と使い方」の作成を始めました。今回は、2019年秋版となります。

2019年は、ことばのテーブルオリジナル教材集として、新しいワークを2点発売しました。100枚プリント第23集「**助詞・動詞穴埋めワーク**」と、第24集「**おしゃべりを作ろう**」です。

今回の〈2019年秋版ガイド〉では、その2点の新教材と、既に発売しているものの中から**昨年のガイドで触れられなかった5点**、あわせて7点の教材について、【会話の学習】、【動詞・助動詞の学習】、【心理洞察の学習】という領域に分けて、ご紹介しています。また、それぞれの領域についてのより詳しい内容については、ことばのテーブルホームページに掲載している各教材の紹介や、ことばのテーブル学習会の資料をご参照いただければと思います。（学習会資料については、ガイドに、[👉第3回キーワードから考えることばの学習「会話能力を中心に」](#)のように案内が示されています。）

今後も、毎年、このガイドを更新していく予定です。**これから発売される新教材や、今回ご紹介できなかった既発の教材については、また来年秋頃作成予定の「2020年版：ことばのテーブル教材集の目的と使い方」に掲載させていただければと思います。**

ことばのテーブル教材集ご利用の一助としていただければ幸いです。

2019年11月 葛西ことばのテーブル 三好純太

追記

資料の後半に、「**つたえあう楽しさを育てる～生活の中のことばの学習～**」というタイトルのスライド資料を載せています。こちらは、主に小学校の保護者会などで、ことばに未熟さを持つお子さんをお持ちの、お母さんやお父さん方に対して、お話ししているものです。机に向かって取り組むような特別な勉強ではなく、毎日のコミュニケーションの中でことばを育てていくための工夫について、お話ししています。

プリント集や学習カードのような“特別な勉強”の教材ガイドに、この資料を載せたのは、ことばのテーブルの教材製作の基本となる考えについて、お伝えしたかったからです。

自然習得すべきことばや認識について、“特別な学習”を行うことは、基本的に困難であり、またそれによる弊害が生じる可能性もあります。本来、日常のコミュニケーションが最良の学びであり、そしてもし、“特別な勉強”を行うのであれば、そこには自ずと限界があり、子どもに無理な努力を強いないことが条件になる。そのことをお伝えするのが、この資料の目的です。